

2025年度 授業評価アンケート集計結果

本学の授業評価アンケート

本学では、平成7年度から講義・演習に対して、さらに令和元年度からは臨地実習に対する授業評価も加え、毎年、学生による授業評価アンケートを実施している。アンケートの結果は、「学生による授業評価アンケート集計報告書」として、教職員に配布し、学生には閲覧できるようにしている。教員は、アンケート結果を分析し、次年度の授業改善に活かせるように、年度末に授業改善用紙を記載し、看護学科長・専攻科長に提出している。

評価基準は下記のとおりである。

A（5点）：満足 B（4点）：やや満足 C（3点）：普通 D（2点）：やや不満 E（1点）：不満

看護学科（講義）

番号	項目	平均点
1	教員の声の大きさは適切であった。	4.5
2	話し方は明快で、その速さは適切であった。	4.4
3	教員の熱意が感じられた。	4.4
4	教科書、参考資料（プリント等）の使用は適切であった。	4.4
5	黒板・視聴覚機器の使用は適切であった。	4.4
6	参考文献等の紹介は適切であった。	4.4
7	シラバスにはほぼ沿うように進められた。	4.4
8	要点が理解できる内容であった。	4.4
9	講義の内容はまとまりがあり、順序立てて行われていた。	4.4
10	他の講義とのつながりが説明されていた。	4.4
11	講義は学生の知識・力量等に合わせて進められた。	4.3
12	学生が考えたり、質問・意見を言う時間を持つよう努めていた。	4.4
13	進行速度が適切で、開始・終了時間が守られていた。	4.4
14	迷惑行為（私語、携帯電話の操作等）に対して適切な対応をしていた。	4.4
15	集中して聴ける講義であった。	4.4
16	知的好奇心が刺激される講義であった。	4.4
17	新しいものの見方が得られる講義であった。	4.4
18	さらに深く学びたいと思える講義内容であった。	4.4
19	総合的にこの講義は良かった。	4.4
20	講義を受けるための事前準備（シラバスの確認・予習等）を行った。	4.1
21	講義中は集中して聴いていた。	4.4
22	迷惑行為をしなかった。	4.5
23	教員の説明内容を積極的に書き留めた。	4.4
24	不明な点は、担当教員に質問した。	4.2
25	講義内容は授業中に理解できた。	4.3

看護学科（演習）

番号	項目	平均点
1	演習に使用する材料や物品は十分に準備されていた。	4.7
2	教科書、参考資料（プリント等）の使用法・量は適切であった。	4.7
3	要点が理解できる内容であった。	4.6
4	演習に使用する器具・機器の使用法の説明が具体的でわかりやすかった。	4.6
5	教員のデモンストレーション等は適切であった。	4.6
6	教員の熱意が感じられた。	4.7
7	レポートの量・提出期限は適切であった。	4.6
8	レポートの書き方・考察の指導は適切であった。	4.6
9	提出した学習課題の指導は適切であった。	4.6
10	提出した課題の返却時期は適切であった。	4.6
11	正しい知識・技術を習得できるように、その都度、教員は指導していた。	4.6
12	進行速度が適切で、開始・終了時間が守られていた。	4.6
13	学生の知識・力量等に合わせて進められた。	4.6
14	学生が考えたり、質問・意見を言う時間を持つよう努めていた。	4.7
15	迷惑行為（私語、携帯電話の操作等）に対して適切な対応をしていた。	4.7
16	積極的に参加できる演習であった。	4.7
17	さらに深く学びたいと思える演習内容であった。	4.7
18	総合的にこの演習は良かった。	4.7
19	演習を受けるための事前準備（シラバスの確認・予習等）を行った。	4.5
20	演習中は積極的に取り組んだ。	4.7
21	迷惑行為をしなかった。	4.7
22	グループワークは協調性をもって行えた。	4.7
23	不明な点は、担当教員に質問した。	4.7
24	演習内容は授業中に理解できた。	4.6

看護学科（臨地実習）

番号	項目	平均点
1	実習要項やオリエンテーション資料はわかりやすかった。	4.8
2	実習で使用する資料や物品は準備されていた。	4.8
3	参考文献などの紹介や使用方法の説明は適切であった。	4.8
4	指導者（スタッフ）と連携をとり、指導に一貫性があった。	4.8
5	学生が対象者（患者・家族等）とうまく関わられるように配慮していた。	4.8
6	学生がスタッフとうまく関わられるように配慮していた。	4.8
7	報告・連絡・相談がしやすい雰囲気を作っていた。	4.8
8	学生が望む体験ができるような機会を作っていた。	4.8
9	記録する場所や記録の保管場所、カンファレンスルームなどを確保できるように調整していた。	4.9
10	オリエンテーションは、実習の目的・目標・実習内容・実習方法が具体的でわかりやすかった。	4.8
11	学生の看護観を深める実習内容であった。	4.8
12	場面（行動計画・援助場面・カンファレンス）に合わせて適切な指導をしていた。	4.8
13	正しい知識・技術・適切な態度を習得できるように、その都度、指導していた。	4.8
14	対象者の個別性を適確に捉え、計画・実施・評価の一連の過程を実施できるよう指導していた。	4.8
15	看護者としてのモデルを示していた。	4.8
16	熱意や誠実性が感じられた。	4.8
17	学生の人格を尊重した関わりであった。	4.8
18	記録物の量は適切であった。	4.7
19	事前課題の提示の時期・量は適切であった。	4.7
20	実習開始・終了時間が必要以上に超過しないよう配慮していた。	4.8
21	学生の知識・力量などに合わせて指導していた。	4.8
22	学生が考えたり、質問・意見を言う時間を持つように努めていた。	4.8
23	さらに深く学びたいと思える実習であった。	4.8
24	この実習指導は良かった。	4.8
25	実習に臨むための事前準備（シラバスや実習要項の確認・予習・実技練習）を行った。	4.9
26	積極的（意欲的）・主体的に取り組み、常に学ぶ姿勢をもっていた。	4.9
27	常に倫理観をもって取り組んだ。	4.9
28	チームメンバーの一員として、行動（責任ある行動、約束を守る、協力する）した。	4.9
29	この実習の目的・目標が達成できた。	4.9

専攻科（講義）

番号	項目	平均点
1	教員の声の大きさは適切であった。	4.9
2	話し方は明快で、その速さは適切であった。	4.9
3	教員の熱意が感じられた。	4.9
4	教科書、参考資料（プリント等）の使用は適切であった。	4.8
5	黒板・視聴覚機器の使用は適切であった。	4.9
6	参考文献等の紹介は適切であった。	4.9
7	シラバスにほぼ沿うように進められた。	4.9
8	要点が理解できる内容であった。	4.8
9	講義の内容はまとまりがあり、順序立てて行われていた。	4.8
10	他の講義とのつながりが説明されていた。	4.8
11	講義は学生の知識・能力等に合わせて進められた。	4.8
12	学生が考えたり、質問・意見を言う時間を持つように努めていた。	4.9
13	進行速度が適切で、開始・終了時間が守られていた。	4.9
14	迷惑行為（私語、携帯電話の操作等）に対して適切な対応をしていた。	4.9
15	集中して聴ける講義であった。	4.9
16	知的好奇心が刺激される講義であった。	4.8
17	新しいものの見方が得られる講義であった。	4.8
18	次の課題が明確になり、さらに深く学びたいと思える講義内容であった。	4.8
19	講義をうけるための事前学習（シラバスの確認・予習等）を行った。	4.5
20	講義中は集中して聴いていた。	4.9
21	迷惑行為をしなかった。	5.0
22	不明な点は、教員に質問した。	4.8
23	講義内容は授業中に理解できた。	4.8

専攻科（演習）

番号	項目	平均点
1	演習に使用する材料や物品は十分に準備されていた。	4.9
2	教科書、参考資料（プリント等）の使用法・量は適切であった。	4.9
3	演習に使用する器具・機器の使用法が具体的でわかりやすかった。	4.9
4	教員のデモンストレーション等は適切であった。	4.9
5	要点が理解できる内容であった。	4.8
6	教員の熱意が感じられた。	4.9
7	正しい知識・技術を習得できるようにその都度、教員は指導していた。	4.9
8	進行速度が適切で、開始・終了時間が守られていた。	4.8
9	学生の知識・能力等に合わせて進められた。	4.8
10	学生が考えたり、質問・意見を言う時間を持つように努めていた。	4.9
11	迷惑行為（私語、携帯電話の操作等）に対して適切な対応をしていた。	4.9
12	学習課題の量・提出期限は適切であった。	4.9
13	学習課題の指導は適切であった。	4.8
14	積極的に参加できる演習であった。	4.9
15	次の課題が明確になり、さらに深く学びたいと思える演習内容であった。	4.9
16	演習をうけるための事前学習（シラバスの確認・予習等）を行った。	4.8
17	演習中は積極的に取り組んだ。	4.9
18	迷惑行為をしなかった。	5.0
19	グループワークは協調性をもって行えた。	5.0
20	不明な点は、教員に質問した。	4.9
21	演習内容は授業中に理解できた。	4.8

専攻科（臨地実習）

番号	項目	平均点
1	実習要項やオリエンテーション資料はわかりやすかった。	4.7
2	実習で使用する資料や物品は準備されていた。	4.7
3	参考文献などの紹介や使用方法の説明は適切であった。	4.7
4	指導者（スタッフ）と連携をとり、指導に一貫性があった。	4.3
5	学生が対象者（患者・家族等）とうまく関わられるように配慮していた。	4.6
6	学生がスタッフとうまく関わられるように配慮していた。	4.5
7	報告・連絡・相談がしやすい雰囲気を作っていた。	4.3
8	学生が望む体験ができるような機会を作っていた。	4.6
9	記録する場所や記録の保管場所、カンファレンスルームなどを確保できるように調整していた。	4.8
10	オリエンテーションは、実習の目的・目標・実習内容・実習方法が具体的でわかりやすかった。	4.7
11	学生の看護観を深める実習内容であった。	4.7
12	場面（行動計画・援助場面・カンファレンス）に合わせて適切な指導をしていた。	4.6
13	正しい知識・技術・適切な態度を習得できるように、その都度、指導していた。	4.6
14	対象者の個別性を適確に捉え、計画・実施・評価の一連の過程を実施できるよう指導していた。	4.6
15	看護者としてのモデルを示していた。	4.4
16	熱意や誠実性が感じられた。	4.5
17	学生の人格を尊重した関わりであった。	4.5
18	記録物の量は適切であった。	4.4
19	事前課題の提示の時期・量は適切であった。	4.5
20	実習開始・終了時間が必要以上に超過しないよう配慮していた。	4.5
21	学生の知識・力量などに合わせて指導していた。	4.5
22	学生が考えたり、質問・意見を言う時間を持つように努めていた。	4.6
23	さらに深く学びたいと思える実習であった。	4.6
24	この実習指導は良かった。	4.6
25	実習に臨むための事前準備（シラバスや実習要項の確認・予習・実技練習）を行った。	4.8
26	積極的（意欲的）・主体的に取り組む、常に学ぶ姿勢をもっていた。	4.8
27	常に倫理観をもって取り組んだ。	4.8
28	チームメンバーの一員として、行動（責任ある行動、約束を守る、協力する）した。	4.8
29	この実習の目的・目標が達成できた。	4.7